

今日は道元さまが伝えられた教えを、日本に曹洞宗として確立された、瑩山さまのお話をします。

瑩山さまは数え八歳で永平寺に入って僧侶の見習いとなり、永平寺二代目住職であった懷辨さまの弟子となり、十三歳で正式に僧侶となりました。

瑩山さまが永平寺に修行に入られたのは、瑩山さまのお婆さま明智さまの影響といわれています。道元さまと共に中国へ渡られた明全さまという方がいらっしゃいますが、一説ではその明全さまの元で修行をされた智姉という方と同一人物であるといわれています。

その説が本当であれば、瑩山さまのお婆さまが、道元さまが帰国して最初の女性信者ということになります。その様な縁があつて瑩山さまはお婆さまに連れられて、永平寺に修行に行かれたのです。

また、瑩山さまのお婆さまやお母さまは、観音さまととても縁が深い方でした。お婆さまは、瑩山さまが生まれる前に、一時期家族の前から姿を消した事があります。

瑩山さまのお母さまになる、娘の懷観さまは大変に心配をし、その行方を探して京都の清水寺の観音さまに毎日お参りをし、明日は満願という日に十一面観音像の頭をひろい、母と娘は再会する事ができたといわれています。瑩山さまのお母さま、懷観さまは、この十一面観音さまにお身体をつくり、守り本尊さまとして大切におまつりしました。

また懷観さまは、三十七歳で瑩山さまを身ごもりました。当時は三十七歳での懐妊出産は大変な話です。安産を願い、嫁ぎ先、現在の福井県越前の国、多禰という場所の観音堂に毎日お参りをし『観音経』を読んで、三千三百三十三拜という礼拝の修行を自分に課した、といわれています。こうして、七ヶ月後観音堂にお参りに行く途中での出産となり、生まれた子を「行生」と名付けました。のちの瑩山さまのご誕生です。早産ではありましたが、苦しまずに産む事が出来たということです。

このように瑩山さまと観音さまとの関係は、お婆さまや、お母さまであるえかん懷観さまとの話として、縁深いものがあります。

観音さまは、慈悲じひの仏様です。懷観さまの慈愛に満ちた心があらわされた話として残されています。

特にお母さまである懷観さまの、観音さまのように慈愛じあいに満ちた信仰篤あつい姿は、そうめい聡明な幼い瑩山さまの心に深く刻まれたのでした。